

## 【22\_260技術系メルマガ】『ここでエントリー！』を決めるための考え方

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

これまでメルマガでは、『目線』の決め方や、エントリーのタイミングを決めるための『短期足のセットアップ』の作り方については何度も解説をしてきました。

が、最近メルマガを登録してくれた皆さんにいつも募っている質問の中に

「最後、いざエントリー！を決断するためにどんなことを考えていますか？」

という質問がありました。

なるほど、これは確かに今まであまり言語化してきたことが無かったですね。

今日のメルマガで、事例を交えて考えてみましょう。

□  
└─ ■ 結局は、『判断する基準』を自分で決めるしかない

あまり身もふたもない結論のように見えてしまうかもしれませんが

『先の値動きは誰にもわからない(不確実性、確率論)』の原理から考えると

「こうすれば確実にエントリーできる(で、勝てる)」と言えるような方法論は存在しないというのが現実です。

この前提として、『エントリーの判断軸』を考えるには

『どうなったら自分は引き金を引くのか “決めておく”』しかありません。

そこで、僕はどんな決め方をしているのか？具体例を示しながら説明してみますね。

▼実トレード事例 9/12 NY時間 USDJPY(S) ▼

[https://kuro-gaki.com/muhai\\_saisoku/chart/2022-09-13\\_mail.png](https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/chart/2022-09-13_mail.png)

今回は、『エントリーの決断』がテーマなので、事例チャートのショート目線の背景などの説明は省略して

『ショートで攻めるなら、どうなったら僕はやるのか？』に焦点を当てていきます。

図を見てもらうと分かる通り、自分の中で注目しているMAへのタッチが確認できた(【256】通目参照)段階で

僕は『チャートパターンの形成』に注目していきます。

今回は、M1足の三尊がキレイに出ていましたね。

パターンを意識する際、一般的なのはネックラインブレイク(図の中の赤線)ですが

もちろん、「ここをブレイクする時に入るぞ!」と、基準を定めたのであればそれでOK。

今後どんな結果となろうが、ブレずにそのスタイルを貫いて行きましょう。

僕は、そこからさらにストップをタイトに置きたかったので、タッチしたMAからなるべく離れないうちにエントリーするために

作られるチャートパターン(三尊)を前もって想定して、早めにエントリーしました。

結局、ネックラインブレイクでエントリーしても、早めにエントリーしても

想定が崩された場合のロスカットの位置(MAを上を貫通されてしまう状態)は変わらないわけです。

なので、もう自分が『やるんだ』と決めてしまったら、早く判断する程その場で負うリスクは少なくなります。

極論を言うと、【一番危なそうに見える所に入るのが、一番リスクは低い】のです。

逆に、決断が鈍って入り遅れるのが一番始末が悪い。

今回は説明の都合上、分かり易くパターンが出てくれた事例で紹介をしましたが

当然こんなに都合よく目線に沿って利確させてくれるトレードばかりではありません。

時には、早めにエントリーを決断したばかりに、時間差をつけてチャートパターンが出来る過程で損切りになることだってあります。

ですが、どんな時でも、自分がエントリーすると判断をする『基準』さえ固まっていれば

勝ち負け両方の結果を受け容れる覚悟を持って、『型通りのトレード』をやるのが僕らの仕事です。

これを完璧に腑に落として実践するのは難しいですが、これは経験と共に自分の個々のエントリーを振り返りながら、少しずつ感覚を身につけていってください。

今後も引き続きリクエストテーマでもメルマガを書いていきますので、扱ってほしいテーマをメールで教えてくださいね。